

おこへ



町の花ハマナス



町の木ナカマド

# 議会だより

第142号

平成27年11月16日

発行 / ☎098-1692 紋別郡興部町旭町 興部町議会

TEL (0158) 82-2131  
FAX (0158) 82-2990

編集 / 議会広報特別委員会



書道サークル東煌

**第3回町議会定例会** ..... P2～4

**町政ここが聞きたい**..... P5

**総務社会・産業建設常任委員会所管事務調査報告** ... P6

**道内行政視察報告** ..... P7～8

**議員活動報告・編集後記** ..... P8

# 平成27年 第3回 町議会定例会のあらまし

平成27年第3回町議会定例会は、9月16日(水)開会され、町長の行政報告、承認1件、議案12件、認定1件、同意2件、報告2件、発議3件、計21案件が審議されました。

## 町長行政報告

### 国保病院の診療体制

内科医長の松原医長が7月31日付けで退職され、新たな常勤医師の確保に向け、取り組んでいます。

また、8月以降の診療体制は、北海道地域医療振興財団からの内科医師の派遣により、月2週(水・金曜日)内科医師2名体制で診療を行っています。

### 遠軽厚生病院の産婦人科診療体制

遠軽厚生病院の産婦人科常勤医師が不在となり、10月以降分娩ができなくなることを決定しました。今後厚生連本部と遠紋圏域自治体で常勤医師の確保に向け努力していきます。

### 「臨時福祉給付金」

### 及び「子育て世帯臨時給付金」支給事業

消費税の引上げによる低所得者や子育て世帯への影響を緩和する目的で実施し

ており、9月1日より受付を開始し、10月より支給を開始する予定です。

### 北海道の出先機関の再編計画

網走農業改良普及センターとして設置されている紋別支所興部分室が、北海道の組織機構の見直しにより本年度中にも紋別支所との統合により廃止する予定であることが発表されました。町としましては、より地域に密着した関わりを持つ農業普及事業が今後も継続されるよう、出先機関の存続を要望していきます。

### 農作物の作況

春先より好天に恵まれ、牧草の生育状況は平年を上回る順調な滑り出しでしたが、6月に入ってから続いた低温の影響により、一番牧草は昨年とほぼ同じ10aあたり2t程度の収穫量となりました。二番牧草は、気候の変動の影響は特に見られず、昨年をやや上回る

10aあたり1.5tの収穫量となっています。また、飼料用とうもろこしの生育状況は、6月に続いた低温と8月の日照不足により、

平年より生育が遅れており、収穫量の減少並びに栄養価が低下する恐れが出ています。

### 生乳生産の状況

8月31日現在3万7千468tで、計画対比98.7%となっています。

### 林業関係の状況

下刈・間伐・植栽などの保育事業については64%の進捗状況となっており、林業専用道宇津線についても工事発注済みで10%の進捗状況となっています。

### 漁業生産の状況

8月末現在、全体水揚量は4千756tで、前年同期比6千870tの減となっています。主な漁獲量については、毛ガニ漁は計画対比100%の114t

## 議会の動き

平成27年8月14日以降	8月14日	魚霊祭・海上遭難者供養及び灯籠流し
8月19日	18~19日	北海道町村議会広報研修会
20日	20日	網走地区森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連絡会定期総会
22日	22日	遠紋地区市町村議会議員パークゴルフ大会
25日	25日	産業建設常任委員会所管事務調査
9月1日	9月1日	全員協議会
11日	11日	議会改革特別委員会
15日	15日	議会運営委員会
11日	11日	敬老会
15日	15日	第2回広域紋別病院企業団議会定例会

で、漁獲許容量は前年度より8t増えておりますが全量消化し、7月4日に漁を終えています。ホタテ漁は計画対比87%の5千248t、前年同期比6千252tの減です。また、マス定置網漁は7月20日に水揚げが開始され、前年同期比9t減の103t、サケ定置網漁は9月4日より水揚げが開始されており、漁獲量及び価格ともに、今後の好漁を期待します。



サケ水揚げ作業

9月1日現在、土木・水道、建築工事とも100%発注しています。

**建設工事の発注状況**

**専決処分を承認した案件**

○平成27年度興部町一般会計補正予算  
(専決処分第1号)

補正額は、100万円を追加し総額46億8千225万2千円とした。

補正内容は、8月27日投票の網走海区漁業調整委員会委員選挙に係る経費の増額。

**一般会計補正予算(第2号)**

今回の補正は、低気圧被害ホタテ貝漁場復旧対策事業補助金の増、基金積立金の増などによる補正で1億2千811万8千円を追加し、歳入歳出それぞれ48億1千37万円とし、原案どおり可決した。

**歳出の主なもの**

○財政調整基金積立金元金 5千254万7千円

○低気圧被害ホタテ貝漁場復旧対策事業補助金

3千154万円  
○興部中学校改築基本設計業務委託料 1千300万円

**特別会計等補正予算(第1号)**

特別会計等5会計で補正予算が提案され、原案どおり可決した。

①興部町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号) 補正額は、970万円を追加し、総額2億4千820万円とした。

補正内容は、沙留下水終末処理場流入管渠改築工事請負費の増額。

②興部町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号) 補正額は、10万円を追加し、総額7億2千10万円とした。

補正内容は、過誤納保険税収入払戻金の増額。

③興部町介護保険事業特別会計補正予算(第2号) 補正額は、229万円を追加し、総額2億8千8万円とした。

補正内容は、平成26年度介護給付費清算に伴う償還金の増額。

④興部町介護サービス事業特別会計補正予算(第1号) 補正額は、2万2千円を追加し、総額3千124万2千円とした。

補正内容は、介護サービス情報調査に係る経費の増額。

⑤興部町国民健康保険病院事業会計補正予算(第1号) 補正額は、収益的収入及び支出の病院事業収益に253万円を追加し収入総額6億1千58万円とし、補正内容は、平成26年度分消費税及び地方消費税還付金の増額。資本的収入及び支出の資本的支出を10万円減額し支出総額737万円とした。

補正内容は、病院改築用地購入費の増額及び自動車等購入費の執行残の減額。

16日	第3回町議会定例会(1日目)
//	決算審査特別委員会(1日目)
//	議会広報特別委員会
17日	決算審査特別委員会(2日目)
18日	第3回町議会定例会(3日目)
28日	遠紋地区町村議会事務局長研修会
//	乳牛感謝祭並びに牛馬祭
10月1日	合同常任委員会
2日	道内行政視察
3日	札幌おこっぺ故里会総会・懇親会
4日	おこっぺ牛乳の里マラソン大会
5日	道東4地区管内町村議会議長会連絡協議会
8日	オホーツク町村議会事務局長会研修会
15日	北海道町村議会事務局長研究会

## 改正された条例

- 興部町手数料条例の一部を改正する条例
- 興部町個人情報保護条例の一部を改正する条例
- 興部町議会議規則の一部を改正する議会議規則

## その他議決された案件

- 北海道市町村職員退職手当組合規約の一部変更
- 北海道市町村総合事務組合規約の一部変更
- 北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の一部変更

## 報告された案件

- 平成26年度普通会計等財政健全化判断比率及び公営企業会計資金不足比率の報告
- 平成26年度興部町国民健康保険病院事業会計予算継続費清算報告書の報告

## 監査委員の選任

任期満了に伴い、吉川澄

雄氏を選任同意した。



吉川監査委員

## 教育委員会委員の任命

任期満了に伴い、小野雄太氏を任命同意した。



小野教育委員

## 意見書の採択

① 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

- 提出者 前田 義雄議員  
賛成者 阿部 昭一議員  
賛成者 藤渡 昭博議員  
賛成者 松川 雄一議員  
賛成者 竹内 清議員

## 平成26年度各会計歳入歳出決算認定

平成26年度興部町各会計決算認定は、議員全員による決算審査特別委員会が設置され、委員長に小泉優子委員、副委員長に阿部昭一委員を選出した。同委員会は、9月16・17日の二日間にわたり全体会議方式で詳細に審査を行い、採決の結果、原案どおり認定した。

- ・「地球温暖化対策のための税」の使途に森林整備や木材利用のための安定的な財源にすること、及び「林業加速化・林業再生対策」を恒久化し財源を確保すること、また、公共事業である森林整備事業及び治山事業の十分かつ安定的に確保することを求める意見書を提出する。
- ② 介護報酬の再改定を求める意見書  
提出者 佐藤 吉春議員  
賛成者 小泉 優子議員  
賛成者 矢野 幸三議員  
賛成者 前田 義雄議員
- ③ 所得税法第56条の廃止を求める意見書  
提出者 佐々木忠行議員  
賛成者 小泉 優子議員  
賛成者 佐藤 吉春議員  
賛成者 矢野 幸三議員  
賛成者 前田 義雄議員
- ・次年度予算において、介護事業所と介護労働者が充実したサービスを提供できるように、介護報酬のマイナス改定を見直しすることを求める意見書を提出する。
- ③ 所得税法第56条の廃止を求める意見書  
提出者 佐々木忠行議員  
賛成者 小泉 優子議員  
賛成者 佐藤 吉春議員  
賛成者 矢野 幸三議員  
賛成者 前田 義雄議員
- ・所得税法56条の廃止を求める意見書を提出する。

10月12日	町村議会議長大会	28日	オホーツク町村議会議長会遠紋ブロック府県行政委託調査
11月3日	功労者表彰式	27日	オホーツク圏活性化期成会秋季要望
3月5日	高規格幹線道路旭川・紋別自動車道早期建設促進期成会要望	23日	議会議員研修会
6日	議会議長特別委員会	22日	遠紋地区市町村議会議員研修会
6日	オホーツク町村議会議長会役員会	21日	オホーツク町村議会議長会正副会長会議

# 町政ここが聞きたい!!

**問** 新興部中学校を木造建築にする考えは

前田義雄議員

**答** 今後計画している公営住宅等で使用したい

裕 一寿町長

**答** 壁・床など極力木質を利用したい

山前邦夫教育長



前田議員

新しい興部中学

校の校舍整備等について概算で14億2千800万円。本体工事は10億円。構造は鉄筋コンクリート二階建てという説明がなされた。

私は、次の二つの視点から木造建築についても検討する考えはないか伺いたい。

(1) 林業木材産業の振興と地方創生という視点から。  
(2) 日本は古来「木と紙の文化」の国といわれてきた。

文化の基礎、基本である教育現場をその象徴として木造建築とする事を検討して然るべきではないか。

ちなみに校舎の校は「木が交わる」と書く。

日本は国土の7割を森林が占める温暖な国であり、中でも北海道はその4分の1を占め更にオホーツク管内は伐採造林量では断トツの森林地帯である。それが木材の輸入等により衰退した。しかし今や木材の需要そのものの減少が大きな要因です。

しかしCO2の削減、地球温暖化防止、自然環境保全のために森林は重要である。更には長年の植林事業で造成された人工林は伐採期に入り、その有効活用と再生可能な無限の資源です。

木を使う事で需要を増やし、再生循環サイクルを確立することが重要と思う。公立施設、特に教育文化施設への利用促進こそ図られて然るべきと考える。

「まち・ひと・しごと創生基本方針」でも、林業の成長

産業化への取り組みとして、公共建築物の木造化の推進のため、各省庁の木材利用計画の見直しと地域の雇用創出、経済活性化を図る」とあり、新中学校も木造建築とする考えはないか。

裕町長 戦後、道内の多くの町が木材産業で発展して来たが、35年頃から木材の自由化が始まり林業の衰退、人口減少に至った。創生事業で林業の復興を謳うのはいいが、国策として放つて置いて、結果本町の製材業をはじめ、多くの木材加工業が壊滅した。

本町の産業振興の中で製材業が無い事、更に木材は単価が高すぎる事、地方創生で新しい事業が出てても微々たる予算でしかない事。また、学校のような大きな空洞のある建物は耐震強度、防火等の問題もある。補助金がたくさんあつてコストをかけられるならいいが、学校改築は他の事業より半分位の補助率しかない。行政として木材を使わなければ、自家消費しなければ、とは考えているので今後、計画している公営住宅等で使っていきたい。

山前教育長 近年、木材を使用した学校施設が注目されている。平成22年の公共建築物における木材利用の促進に関する法律が施行され、国、地方自治体が整備する公共施設、学校等に木材利用が増加傾向にある。学校施設への木材利用は子供達の学習生活環境の改善や地域環境の保全、地場産業の活性化等の意義、効果があると承知している。

課題は工事費がコンクリート造りと比べてかさむ事、耐火性、耐久性、耐震性等に不安がある事、材料確保、技術者確保の難しさも。課題のある中で来年度着工予定の校舍建設は、鉄筋コンクリート造りとし、内装において壁、床など木質系を利用できるところは、極力利用して学習環境に配慮した「学校づくり」を進めていきたい。

(5)

# 総務社会常任委員会所管事務調査報告

7月17日、紋別市大山町1丁目にあります、小規模多機能ホーム「ひなた」様を視察しました。

高齢化社会となり、2025年団塊世代（600万人）が後期高齢者となり独居老人、老齢夫婦世帯が増加する予定です。国は福祉費削減のため病床削減、在宅療養・在宅介護に重きを置く考えであります。

小規模多機能事業は在宅支援事業で、訪問ヘルパー、デイサービス、短期宿泊機能を有しています。紋別市には特別養護老人ホーム、老人保健施設、グルー



小規模多機能ホーム「ひなた」視察

プホームなど複数の介護施設があります。小規模多機能ホーム「ひなた」様では、登録定員29名、1日のデイサービス利用人員16名、ショートステイ受入れ7名となり、他にサテライト施設として「はねだ屋」があり登録定員18名、1日のデイサービス利用人員9名、ショートステイ受入れ

4名となっております。隣接する老人施設もあり、現在利用希望待機者30名程となっております。施設登録をすると他施設の利用は不可となり、また、他の福祉施設利用者は小規模多機能事業所の利用は不可となり、とても規制の多い事業であります。また、宿泊利用者7名となつてはいるなか、現在6名が長期宿泊利用となつており緊急時のための1床は空床にしている。

## 産業建設常任委員会所管事務調査報告

興部北興バイオガスパラント事業の工事が発注され、このことに伴い、興部町内で今年の4月に完成し、稼動が始まった(有)パインランドデーリーのバイオマ

スプラント施設を8月25日に(有)パインランドデーリーの協力により視察しました。現在搾乳牛頭数500頭、乾乳牛100頭で、一日あたり、糞尿量その他の原料処理量は4万3千39

8kgで、この原料処理量によるバイオガス発生量は1千799m<sup>3</sup>であり、一日の売電用発電量は4千117・5kWで、発電機で出る排熱を効率よく循環させ利用しています。また、バイオガスを取り出した後のス

ラリーは有効な肥料分を豊富に含む液肥となり効率の良い循環型農業を可能にします。また、それぞれをつなぐ配管はすべて地下埋設

興部町では、高齢者下宿と「きらり」のみの施設です。在宅不能者の受入れ施設を優先するの必要を感じました。

2箇所目は、4月に新築開院した広域紋別病院を視察しました。西紋地域での2次、3次医療の拠点として地域にとり今後とも大変お世話になる病院です。施設として大変充実していますが、医師不足に悩んでおり、各科医師1人でも多く

となつてはいるため地上においてははその施設しか見えません。当施設はまだ、パーラー棟が現在建設中で、大型の牛舎が何棟もありますが大変きれいな牛舎構内でありました。

興部町においても、バイオガスプラント機械のメーカーは違うものの、原料処理能力は、ほぼ同等のプラントとなるため、運転・運用において非常に参考になります。また、この設備とこれ



広域紋別病院視察

来て下さることを期待しております。

(記：総務社会常任委員長

小泉 優子)

からできる設備は、興部町内における環境整備の一環に寄与するものと大いに期待をしているところです。

(記：産業建設常任委員長

阿部 昭二)



パインランドデーリィ視察

# 道内行政視察報告

## 標茶町行政視察報告

### 新規就農対策及び担い手育成について

去る、10月1日道内行政視察に於いて、標茶町の新規就農対策と担い手育成について研修してまいりました。標茶町は農業を基幹産業とし、中でも特に酪農主体の町です。標茶町も農家戸数の減少、生産乳量の減産傾向に歯止めがかから



しべちや農楽校

ず、過去20年間で14戸の新規就農はあったものの、更なる体制の整備、強化を図るため、閉校が決まっていた小学校を6千万かけて改修し、しべちや農楽校を設立しました。研修施設や宿泊施設として、短期体験研修や新規就農研修を受け入れ、また、地元の酪農青年も含めた酪農座学研修を月2回程度行っています。これと時を同じくして、J A 標茶、牛の飼料会社、標茶町の3者の協同出資による農業生産法人(株)タックス標茶を立ち上げて生産乳量の底上げと、しべちや農楽校からの研修生を受け入れ、就農に向け研修を重ねています。しべちや農楽校にはタックス標茶の事務所もあり、就農コーディネーターを置き研修から就農までのケアを行っています。興部町はここ10年で農家戸数が



標茶町行政視察

107戸から82戸までになり、その内、後継者がいないと答えた農家が20戸（J A 北オホーツク調べ）あり、このままでは将来を見据えた時に大変不安です。興部町にも学び、実践できる研修牧場があり、地域と一体となり育て上げる体制づくりが必要です。新規就農希望者が興部町を目指してもらえぬ取り組みが求められています。

（記：産業建設常任委員会

副委員長 藤渡 昭博）

## 小清水町行政視察報告

### 小清水中学校視察について

10月2日、小清水町立小清水中学校、生徒数121名（普通4学級・特別支援2学級）の視察に行つての報告をいたします。午前10時に小清水町議会会議室にて、坂田秀昭小清水町議会議長以下、事務局、教育長、建設課等の皆様の歓迎と説明を受け、その後中学校の現地視察をしてきました。教育長による事務レベルでの説明は、建設工事発注時期について、補助金交付の時期が決定されており、工事発注時期に制約がある。北海道の季節を念頭に置いて補助金交付前に工事発注が出来るよう、国の機関に陳情の検討を進めるよう提言がなされており



小清水町行政視察

ました。その後、現地視察では強風で臨時休校の中学生たちを迎え入れ、隅々まで案内し説明をして頂きました。教室内は、生徒一人一人に気を配った机と黒板など、その他学習に相応しい設備が行き届いていました。また、建設課主任の西川豊人様の説明には、現興部中学石原邦彦校長は、平成24年4月から平成26年11月までの小清水中学校建設当時に、小清水中学校副校長として在籍しており、中学校建設の中心となつて、施設や様式等の採用にアイデアを頂いたり、その他多



小清水中学校

# 議員活動報告

## 議会全員協議会

議長 山川 孝義

9月1日協議会を開催し次の事項について、理事者及び所管課から説明を受け、質疑を行った。

- 興部町行政手続条例改正支援業務委託の概要につ

いて

- 興部町個人情報保護条例の一部を改正する条例について
- 新中学校校舎改築設計費について
- 興部北興バイオガスパラント用地建物等移転補償金の増額について

- 低気圧被害ホタテ貝漁場復旧対策事業について
- 西紋改良普及所の統廃合について
- 興部町総合戦略策定委員会の設置について
- 国有財産売払国保病院用地に係る用途指定解除の手続きについて

○成年後見制度利用支援事業について

## 議会運営委員会

委員長 佐藤 吉春

9月11日委員会を開催し次の事項について審議した。

- 平成27年度第3回議会定例会について

## 編集後記

大な協力を惜しみなくして頂いた。との説明があり、たまたま興部町に赴任して、また中学校建設にお力を頂けることは、興部町にとって、又生徒にとって失敗のない最高の物を造って頂けるものと確信し視察から帰ってきました。

今回の視察においては、私たちを迎え入れてくれた小清水町役場、および学校関係者の皆様に本当に感謝申し上げます。

(記…総務社会常任委員会

副委員長 佐藤 吉春)

旭川10月13日、例年より10日早い初雪の吹雪模様がテレビで報道されていた。

ここ数年、気象状況の不安定が続き、爆弾低気圧・局地豪雨に竜巻、また台風

の二重同時発生、低温で日照不足が続いた後は、高温で熱中症と、現代の政治模様の鏡像のようである。7月16日、衆議院本会議で安

保法案が可決し、続く9月19日参議院本会議で安保法案が可決した。

先進国でありながら、ようやく安全保障面での先進国の仲間入りに一歩前進した。いづれにせよ、今国会のごたごたは国民の目には、茶番にすらうつる。

国会の常識として、反対するには対案を出して、国民に分かり易く説明し、選択の機会を提供することで野党の一步前進した姿を見

せることができたのではないかと思う。兎にも角にも、気象状況の安定と政治の安定を望みたい。いやいや、経済の発展と安定が我々庶民には一番必要である。

(記…佐藤吉春広報委員)

